

カモシカを見かけたら・・・

近年、市内全域でニホンカモシカが多く目撃されています。カモシカは昭和9年に国の天然記念物、昭和30年に国の特別天然記念物に指定され保護されています。成獣は、体長1～1.5m程で、黒褐色や灰褐色の体毛で覆われており、10～15cm程の角を2本持っています。草食動物で、基本的におとなしく、単体で行動します。ほとんどの場合、人を見かけると山へ帰っていきます。

カモシカを見かけたら近づかず、その場をそっと離れて絶対に触らないでください。驚かせたり刺激を与えないようにしてください。また、次の場合は文化財保護センターへ連絡してください。

- ・交通安全上の問題がある場合や、自力で山へ帰ることができないような場合。
- ・けがや病気等で動けない場合や、死亡している場合。



※原則として捕獲はできません
※多治見市以外で見かけた場合は、その場所の市町村(文化財担当)へ連絡してください

令和5年度上半期 文化財保護センタースケジュール

5～7月

北小木川の草刈および北小木のホタル生息数調査

市天然記念物「北小木のホタル」の住みやすい環境作りのため北小木川の草刈やホタルの生息数調査をします。草刈は5月21日(日)、予備日5月28日(日)、生息数調査は6月の毎週月・木曜日と7月の第1・2月曜日の午後8時から行い、ボランティアを募集します。応募の詳細は広報たじみ5月号をご覧ください。

6月

企画展「やきもの入門 - 多治見の近世編 -」特別開館

多治見や美濃で作られた江戸時代のやきものを紹介する企画展。6月4日(日)に特別開館を行います。

日時 6月4日(日) 9:00～17:00(最終入館 16:30)
場所 文化財保護センター展示室 入場無料

7月

企画展「長福寺展」

青龍山長福寺は弁天町にある真言宗の寺院です。令和3年度に長福寺所蔵の「美濃国池田御厨某寺奉加帳」が市有形文化財に指定されました。この奉加帳とともに長福寺の歴史を紹介する企画展です。

期間 7月24日(月)～12月22日(金) 9:00～17:00(最終入館 16:30)
場所 文化財保護センター展示室 入場無料

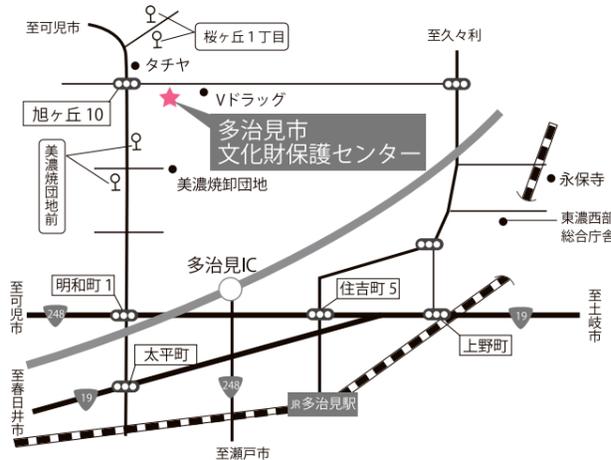
多治見市文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26
TEL(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033
E-mail hogo-cen@city.tajimi.lg.jp
ホームページ <https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>



〈利用案内〉 開館時間：9:00～17:00(最終入館 16:30)
休館日：土・日・祝日、年末年始 入場無料

〈交通案内〉 自動車：多治見 IC より車で 10 分
電車・バス：JR 多治見駅北口より東鉄バスにて桜ヶ丘ハイツ線・緑ヶ丘線「桜ヶ丘 1 丁目」または「美濃焼団地前」下車徒歩 5 分



自然と人の文化 No.61 2023年3月発行

編集 / 発行 多治見市文化財保護センター



twitter



instagram

発行部数：1300部(税込48,334円) この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。

三彩が岐阜県重要無形文化財に指定されました

自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより No.61 2023.3



七代加藤幸兵衛造「三彩水指」

技術保持者 七代加藤幸兵衛(本名:加藤裕英) 令和5年2月21日指定

三彩は、色釉を2種以上でかけ分けた陶器です。中国と中近東が起源であるといわれ、1～2世紀に開発されました。その後中国で三彩の技法が発達し、7世紀末ごろから唐三彩が隆盛を極め、周辺諸国にも大きな影響を及ぼしました。日本にも技術が伝播し、8世紀には奈良三彩が作られるようになります。

七代加藤幸兵衛氏は、父加藤卓男氏(1917-2005 国重要無形文化財)が復元した奈良三彩やペルシア陶の技術を引き継ぐ一方で、「銚彩」や「むらさき銚彩」という新たな色の三彩を生み出し、従来の三彩を発展させてきた功績が高く評価されています。また、人材育成や若手陶芸家の指導にも尽力しています。



みののくにいけだのみくりやぼうじほうがちょう
長福寺文書「美濃国池田御厨某寺奉加帳」を修理しています



長福寺文書「美濃国池田御厨某寺奉加帳」は、平成29年度から行っている長福寺での史料調査で発見された中世の文書です。この奉加帳は、寺院の建立または仏像の造営に関わる寄付金を募った名簿で、正安3年(1301)頃にかかれたものです。

奉加帳は、市内で確認されている古文書では最も古く、美濃の中世の武士集団や寺院、中央などの歴史を解明するうえで貴重な資料であるということから、令和4年1月26日に多治見市有形文化財に指定されました。

奉加帳は巻頭部分が水損等により欠失して状態が悪く、また虫食いなどの損傷もあり、令和4年度から5年度にかけて修理をすることになりました。令和4年度の修理では、写真撮影での状態記録や解体、汚れの除去や欠失箇所への補修紙の充填等を行いました。

写真上 破損の大きい巻頭部分に補紙をあてます。
 下 3つの短い軸木が使われていたことがわかりました。

カワニナ生息数調査

市天然記念物「北小木のホタル」の調査の一環として、ホタルの幼虫の餌であるカワニナ(巻貝の一種)の生息数調査を北小木川と神明洞川で毎秋に行っています。今年度は3年ぶりにボランティアの募集をして実施しました。

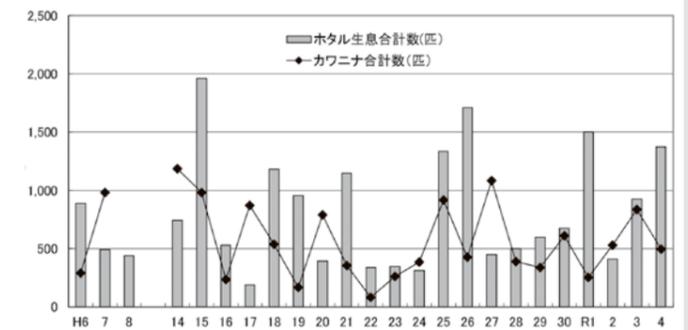
カワニナは、日当たりが良く暖かく、水流が緩やかな岩やコンクリートなどの上に多く見られます。反対に日陰で寒いところではほとんど生息していません。令和4年度は、第2地点で200匹を超える大量のカワニナを観察でき、全体では492匹の生息数を確認することができました。

ホタルとカワニナの生息数は連動しており、カワニナが多い年の翌年にホタルは大発生し、その後数年間はホタル減少期が続きます。ホタル減少期にはカワニナ数も減少する傾向があります。今年度の結果から、令和5年のホタルは前年と比べ減少することが予想されます。

今後もカワニナ生息数の増減の傾向を把握し、ホタル発生数との関連性を探究し、ホタルの保護に役立てていきます。



令和4年カワニナ調査の様子。川の14地点で50cm角の枠の中に生息するカワニナを調査します。



文化財講座「鉄道まちあるき」と企画展「多治見の鉄道史」が終了しました

令和4年7月から12月に開催した企画展「多治見の鉄道史」の関連講座として、旧笠原鉄道沿線を巡る「鉄道まちあるき」を同年11月12日に開催しました。多治見市役所駅北庁舎から陶彩の径「市之倉口駅」までを、笠原鉄道が走っていた頃の写真をしながら解説付きで巡りました。当日は天気も良く、多くの方に参加いただきました。

また、企画展にも多くの方にご来館いただき、その中には資料を提供してくださった方もいらっしゃいました。身近な交通手段である鉄道に対する関心の高さを窺い知ることができました。企画展及び文化財講座にご協力いただいた方々、ご来館・ご参加いただいた方々に感謝申し上げます。



「鉄道まちあるき」の様子



「鉄道まちあるき」解説風景

第69回文化財防火デー 文化財立ち入り点検、永保寺防火訓練

昭和24年1月26日に発生した火災により法隆寺金堂壁画が焼損したことから、1月26日を「文化財防火デー」として、全国で文化財の点検や防火訓練が行われています。

多治見市では3年ぶりに有形文化財を所蔵する寺社や公民館で、消防点検や漏電の検査を行いました。

また、1月29日には虎渓山永保寺で消防本部、消防団、永保寺自衛消防隊、教育委員会の総勢71名による防火訓練がありました。近隣で林野火災があったと想定し、国宝観音堂に水の幕を作る延焼防止活動をしました。

永保寺防火訓練も3年ぶりの開催で、改めて文化財を守り継承する大切さを感じることでできる訓練となりました。



消防団による放水(永保寺防火訓練)



観音堂に水の幕を作ります。(永保寺防火訓練)